



学 会 通 信

第 104 号

2022 年 10 月 31 日発行

目次

2022 年度定例会総会開催通知（会告）	2
第 29 回年次大会のご案内【直前号】	10
ICoME 2022 のご報告	14
第 1 回研究委員会 研究会のご報告	15
論文投稿のご案内	16
学会費納入のお願い，入会者・退会者	17

2022 年度定例会総会開催通知（会告）

正会員各位

下記により 2022 年度日本教育メディア学会定例会総会を開催いたします。会員各位の出席をお願いいたします。なお、ご出席されない方は、事務局から送られたメールに記載されている様式で委任状をお送りください（2022 年 11 月 25 日（金）締め切り）。

2022 年 10 月 20 日
日本教育メディア学会
会長 中橋 雄

記

1.日 時：2022 年 11 月 26 日（土）13:00－13:50（年次大会第 1 日目）

2.場 所：椋山女学園大学

3.内 容：

（1）議案

第 1 号議案 2021 年度事業報告及び収支決算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2021 年度収支決算（案）、監査報告

第 2 号議案 2022 年度事業計画及び収支予算承認の件

- ①機関誌発行
- ②査読システムの運用
- ③年次大会の開催
- ④学術交流等
- ⑤2022 年度収支予算（案）

第 3 号議案 日本教育メディア学会会則の変更について

第 4 号議案 その他

（2）報告事項

- ①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査経過と結果報告
- ②2023 年度年次大会の件
- ③その他

以上

(1) 議案

第1号議案 2021年度事業報告及び収支決算承認の件

2021年度に実施した事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第28巻1号, 第28巻2号を刊行し, 在会会員に配布した。
2. IJEMT Vol.15, No.2 を刊行した。
3. 学会通信第98号(2021年5月24日発行), 第99号(2021年7月5日発行), 第100号(2021年11月9日)および第100号修正版(2021年12月7日), 第101号(2022年1月29日発行)を刊行し, 会員に配布した。

②年次大会の開催

日本教育メディア学会第28回年次大会を, オンラインで開催した(2021年12月18日-12月19日)。
また, 「第28回年次大会発表集録」を刊行した。

③学術交流等

1. 次の研究会を開催した。
 - (1) 2021年度第1回日本教育メディア学会研究会
「新しい生活様式における教育とメディアの活用／一般」
(2021年7月31日: オンライン)
 - (2) 2021年度第2回日本教育メディア学会研究会
「1人1台端末環境での新たな学びとメディアリテラシー／一般」
(2022年2月27日: オンライン)
2. ICoME2021を共同開催した。
(2021年8月18日-8月20日: オンライン, 事務局: KAEIM, 全南大学校)
3. 企画委員会による年次大会での企画委員会セッションを開催した。

④2021年度収支決算(案), 監査報告

2021年度収支決算(案)を次ページに記す。

2021年度収支決算（案）
1 貸借対照表 2022年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	6,259,922	5,477,300	782,622
仮払金	0		0
流動資産 計	6,259,922	5,477,300	782,622
資産 計	6,259,922	5,477,300	782,622
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1		1
預り金	0		0
流動負債 計	1	0	1
負債 計	1	0	1
III 正味財産の部			0
1 一般正味財産	6,259,921	5,477,300	782,621
正味財産 計	6,259,921	5,477,300	782,621
負債及び正味財産 計	6,259,922	5,477,300	782,622

2021年度収支決算(案)
2 正味財産増減計算書
2022年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常収益の部				
(1)経常収益				
①入会金	74,000	36,000	38,000	*入会金小計
入会金	74,000	36,000	38,000	正会員20名、学生会員17名
②会費	3,135,000	2,670,000	465,000	*会費小計
正会員会費	1,729,000	1,722,000	7,000	247名分(昨年度246名、正会員数290→292)
学生会員会費	128,000	80,000	48,000	32名分(昨年度20名、学生会員数39→42)
団体会員年会費	300,000	0	300,000	6団体分(団体会員6団体)
購読会員年会費	28,000	14,000	14,000	4会員分(購読会員9会員)
過年度正会員会費	602,000	812,000	-210,000	のべ86名分
過年度学生会員	48,000	28,000	20,000	のべ12名分
過年度団体会員年会費	300,000	0	300,000	6団体分(団体会員6団体)
過年度購読会員年会費	0	14,000	-14,000	
③事業収益	812,000	473,000	339,000	*事業収益小計
刊行物頒布収入	318,000	87,000	231,000	別刷印刷の著者購入代
全国大会参加費収入	494,000	386,000	108,000	199名分(現職初中等教員は無料)
④雑収益	46	37	9	*雑収益小計
受取利息	46	37	9	利息
経常収益計	4,021,046	3,179,037	842,009	*年度の総収入額
(2)経常費用				
①事業費	2,307,947	2,461,328	-153,381	*事業費小計
通信運搬費	132,200	216,263	-84,063	学会誌・別刷郵送料、請求書等郵送料
システム運営費	718,123	215,138	502,985	査読システム初期構築費、研究委員会(国内)Wifiレンタル費、Webサーバ料金等
消耗品費	202,923	220	202,703	年次大会開催のための消耗品、論文賞状等、文具等
印刷製本費	404,580	616,110	-211,530	教育メディア研究28(1)・28(2)、別刷
会議費	75,805	2,000	73,805	年次大会会議費、弁当茶菓子代等
研究会委託費	0	440	-440	*他科目へ移行、詳細は収支事業別内訳参照
国際会議開催補助費	0	34,913	-34,913	当年度は該当無
年次大会委託費	0	99,520	-99,520	*他科目へ移行、詳細は収支事業別内訳参照
企画委員会委託費	0	49,440	-49,440	*他科目へ移行、詳細は収支事業別内訳参照
顕彰事業費	55,685	55,939	-254	論文賞状
支払手数料	41,662		41,662	年次大会Peatix利用手数料、振込手数料等
委託費	534,165		534,165	論文誌作業費
諸謝金	16,705	1,068,140	-1,051,435	年次大会講師謝金
雑費	126,099	103,205	22,894	年次大会・事務局論文誌発送等の運営補助費
②管理費	930,477	0	930,477	*管理費小計
通信運搬費	8,390	0	8,390	委嘱状送付、新事務局移転費等
システム運営費	352,132	0	352,132	会員管理システム利用料(年間)、e選挙利用料、クラウド会計システム利用料等
旅費交通費	22,000	0	22,000	監査に係る旅費
消耗品費	5,265	0	5,265	事務局文具等
支払手数料	140,041	0	140,041	会員管理システム利用手数料、振込手数料等
諸謝金	356,386	0	356,386	事務局補助謝金
雑費	46,263	0	46,263	新事務局什器整備
経常費用計	3,238,424	2,461,328	777,096	*年度の総支出額
当期一般正味財産増減額	782,622	717,709	64,913	*学会の財産の1年間における増減額
一般正味財産期首残高	5,477,300	4,759,591	717,709	*年度初めの口座残高の額
一般正味財産期末残高	6,259,922	5,477,300	782,622	*年度終わりの口座残高の額
II 正味財産期末残高	6,259,922	5,477,300	782,622	*本学会の資産の額

「*」がある備考欄は科目そのものの説明

第2号議案 2022年度事業計画及び収支予算案

2022年度に実施する事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第29巻1号、第29巻2号を刊行し、会員に配布する。
2. IJEMT Vol.16, No.1, No.2 を刊行する。
3. 学会通信第102号ー第105号を刊行し、会員に公開する（メーリングリスト、Webサイト）。

②査読システムの運用

1. 国内ジャーナルにおいて新査読システムの運用を開始する。
2. 国際ジャーナルにおいて Open Journal System(OJS)のクラウドサービス運用を行う。

③年次大会の開催

日本教育メディア学会第29回年次大会を、椋山女学園大学で開催する(2022年11月26日ー27日)。
また、「第29回年次大会発表論文集」を刊行し、申込者に配布する。

④学術交流等

1. 次の研究会を開催する。

(1) 2022年度第1回日本教育メディア学会研究会

(2022年7月10日・東京学芸大学)

(2) 2022年度第2回日本教育メディア学会研究会

(2023年3月18日・広島経済大学)

2. ICoME2022 を共同開催する。

(2022年8月3日ー4日：オンライン開催(事務局：アメリカ、ハワイ大学マノア校))

⑤2022年度収支予算(案)

2022年度収支予算(案)を次ページに記す。

2022年度 予算案
1 2022年度収支予算案
2022年4月1日から2023年3月31日

(単位：円)

科 目	2022年度予算額	2021年度予算額 (参考)	予算額の差異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常収益の部				
(1) 経常収益				
① 入会金	60,000	50,000	10,000	* 入会金小計
入会金	60,000	50,000	10,000	
② 会費	1,981,200	2,263,000	-281,800	* 会費小計
正会員会費	1,430,800	1,421,000	9,800	7,000円×292名の納入率70%
学生会員会費	98,400	92,000	6,400	4,000円×41名の納入率70%
団体会員年会費	300,000	300,000	0	50,000円×6団体
購読会員年会費	49,000	70,000	-21,000	7,000円×7会員
過年度正会員会費	70,000	42,000	28,000	7,000円×10名(未納者の30%)
過年度学生会員	12,000	24,000	-12,000	4,000円×3名(未納者の30%)
過年度団体会員年会費	0	300,000	-300,000	
過年度購読会員年会費	21,000	14,000	7,000	7,000円×3会員
③ 事業収益	460,000	100,000	360,000	* 事業収益小計
刊行物頒布収入	200,000	100,000	100,000	別刷印刷の著者購入代
全国大会参加費収入	260,000	0	260,000	3,000円×80名(正会員) 1,000円×20名(学生)
④ 雑収益	50	0	50	* 雑収益小計
受取利息	50	0	50	利息
経常収益計	2,501,250	2,413,000	88,250	* 年度の総収入額
(2) 経常費用				
① 事業費	2,532,000	3,372,000	-840,000	* 事業費小計
通信運搬費	101,000	300,000	-199,000	学会誌・別刷郵送費、請求書等郵送費
システム運営費	360,000	300,000	60,000	査読システム利用費、Webサーバ料金等
消耗品費	231,000	50,000	181,000	年次大会開催のための消耗品、論文賞賞状等、文具等
印刷製本費	450,000	1,000,000	-550,000	教育メディア研究29(1)・29(2)、別刷
会議費	200,000	2,000	198,000	理事会・年次大会会議費、弁当茶菓子代等
研究会委託費	0	60,000	-60,000	* 2022年度も他科目へ移行、詳細は収支事業別内訳参照
年次大会委託費	0	400,000	-400,000	* 2022年度も他科目へ移行、詳細は収支事業別内訳参照
顕彰事業費	56,000	60,000	-4,000	論文賞賞金
支払手数料	64,000	0	64,000	年次大会システム利用手数料、振込手数料等
委託費	550,000	0	550,000	論文誌作業費
諸謝金	195,000	1,100,000	-905,000	年次大会講師謝金、サーバー移管作業謝金
雑費	325,000	100,000	225,000	年次大会・事務局論文誌発送等の運営補助費
② 管理費	820,000	100,000	720,000	* 管理費小計
通信運搬費	5,000	0	5,000	委嘱状送付、新事務局移転費等
システム運営費	300,000	0	300,000	会員管理システム利用料(年間)、クラウド会計システム利用料等
旅費交通費	50,000	50,000	0	監査に係る旅費
消耗品費	5,000	0	5,000	事務局文具等
支払手数料	120,000	0	120,000	会員管理システム利用手数料、振込手数料等
諸謝金	320,000	0	320,000	事務局補助謝金
雑費	20,000	50,000	-30,000	教育関連学会連絡協議会年会費
経常費用計	3,352,000	3,472,000	-120,000	* 年度の総支出額
当期一般正味財産増減額	-850,750	-1,059,000	208,250	* 学会の財産の1年間における増減額
一般正味財産期首残高	6,259,922	5,477,300	782,622	* 年度初めの口座残高の額
一般正味財産期末残高	5,409,172	4,418,300	990,872	* 年度終わりの口座残高の額
II 正味財産期末残高	5,409,172	4,418,300	990,872	* 本学会の資産の額

[*] がある備考欄は科目そのものの説明

第3号議案 日本教育メディア学会会則の変更について

学会員維持のため、会則第3章における会員の種別、入会方法、会費納入の時期を緩和したい。

修正案	現行
<p>第3章 会 員</p> <p>(略)</p>	<p>第3章 会 員</p> <p>(略)</p>
<p>第5条 会員の種別は、次のとおりとする。</p> <p>(1)正会員 教育メディアに関する研究に従事する者で、本会の目的に賛同し、所定の手続きによって入会した個人</p> <p>(2)学生会員 本会の目的に賛同し、所定の手続きによって入会した学生（大学院修士課程及び博士前期・後期課程に在籍する大学院生 （社会人学生をのぞく）を含む）</p> <p>(3)団体会員 本会の目的に賛同し、所定の手続きによって入会した法人等の団体</p> <p>(4)名誉会員 本会の発展に顕著に貢献した個人</p> <p>(5)購読会員 本会の機関誌を定期的に購読する機関</p>	<p>第5条 会員の種別は、次のとおりとする。</p> <p>(1)正会員 教育メディアに関する研究に従事する者で、本会の目的に賛同し、所定の手続きによって入会した個人</p> <p>(2)学生会員 本会の目的に賛同し、所定の手続きによって入会した学生（大学院修士課程及び博士前期・後期課程に在籍する大学院生 （社会人学生をのぞく）を含む）</p> <p>(3)団体会員 本会の目的に賛同し、所定の手続きによって入会した法人等の団体</p> <p>(4)名誉会員 本会の発展に顕著に貢献した個人</p> <p>(5)購読会員 本会の機関誌を定期的に購読する機関</p>
<p>第6条 本会の会員になろうとする者は、入会金及び1年分の会費を添えて、正会員1名以上の推薦を受けた入会申込書を会長あてに提出し、理事会の承認を得なければならない。</p> <p>(略)</p>	<p>第6条 本会の会員になろうとする者は、入会金及び1年分の会費を添えて、正会員1名以上の推薦を受けた入会申込書を会長あて提出し、理事会の承認を得なければならない。</p> <p>(略)</p>
<p>第8条 正会員、学生会員及び団体会員はその種別に応じ、それぞれ別に定める額の会費を 前年度末までに納入しなければならない。</p> <p>(略)</p>	<p>第8条 正会員、学生会員及び団体会員はその種別に応じ、それぞれ別に定める額の会費を 前年度末までに納入しなければならない。</p> <p>(略)</p>

制定	平成 6 年 4 月 1 日	制定	平成 6 年 4 月 1 日
改正（施行）	平成 9 年 4 月 1 日	改正（施行）	平成 9 年 4 月 1 日
改正（施行）	平成 10 年 10 月 26 日	改正（施行）	平成 10 年 10 月 26 日
改正（施行）	平成 12 年 10 月 8 日	改正（施行）	平成 12 年 10 月 8 日
改正（施行）	平成 16 年 10 月 16 日	改正（施行）	平成 16 年 10 月 16 日
改正（施行）	平成 20 年 10 月 19 日	改正（施行）	平成 20 年 10 月 19 日
改正（施行）	平成 21 年 9 月 12 日	改正（施行）	平成 21 年 9 月 12 日
改正（施行）	平成 23 年 11 月 4 日	改正（施行）	平成 23 年 11 月 4 日
改正（施行）	平成 28 年 11 月 26 日	改正（施行）	平成 28 年 11 月 26 日
改正（施行）	令和 4 年 11 月 XX 日	（新設）	

第 29 回年次大会のご案内【直前号】

年次大会実行委員長 亀井美穂子（椙山女学園大学）

第 29 回日本教育メディア学会年次大会を、2022 年 11 月 26 日（土）、27 日（日）に椙山（すぎやま）女学園大学を会場とし、開催いたします。

日本教育メディア学会は、2020 年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大に影響を受けてきましたが、年次大会、研究会ともに、オンライン開催で欠かすことなく開催されてきました。この間、オンラインでの研究発表や議論も活発に行われ、またオンラインでの運営ノウハウもより洗練されてきたことと存じます。

以前にも増して教育メディアは、初等教育から高等教育、また企業、地域や家庭など、認知され、活用され、研究されるようになっていきます。このような中で本年次大会では、より広範な領域、場面における教育メディア研究の成果を共有し、議論を通して、豊かな学びと社会を築ける場を、皆様とともに創りたいと存じます。

今回の年次大会は、現地で開催し、対面で研究成果を共有したいと考えております。会場は、名古屋駅から地下鉄で約 30 分と比較的アクセスしやすい場所がございます。大会実行委員会一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1. 大会プログラム

1 日目 11 月 26 日（土）

午前：理事会

13:00－13:50 総会

14:00－14:50 大会企画

15:00－17:00 シンポジウム

2 日目 11 月 27 日（日）

09:30－11:30 一般研究発表(1)

11:30－12:30 昼食

12:30－14:30 課題研究

14:40－16:40 一般研究発表(2)

2. 大会までのスケジュール

~~7 月 10 日 課題研究プロポーザル受付開始（Web サイト及び学会員 ML で周知）~~

~~<https://forms.gle/LsX469ewfKXUnnjJ8>~~

~~8 月 10 日 課題研究プロポーザル締切~~

9 月 10 日 課題研究結果通知・大会参加申込開始・一般研究発表申し込み開始

10 月 10 日（→10 月 31 日：延長しました）

課題研究・一般研究原稿提出期限

<https://forms.gle/JoxQ5qf7i2p4M79w8>

3. 参加費・参加申込について

以下の URL から、参加申し込みを行ってください。参加申込、支払い、領収書発行等を行うことができます。11月19日までの事前支払いと、当日支払い（Peatixに限る）に対応します。

<https://peatix.com/event/3292127/>

参加費は、以下のとおりです。

会員 3,000 円(事前), 4,000 円(当日)

学生会員 1,000 円(事前), 2,000 円(当日)

非会員 4,000 円(事前), 5,000 円(当日) ※ただし、非会員の現職教員は無料

学生非会員 2,000 円(事前), 3,000 円(当日)

(発表者の資格)

- ・ [発表者]は、本学会の会員（正会員、学生会員、団体会員、名誉会員）に限ります。今回の発表を機に、学会に入会いただく場合は発表できます。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方です。
- ・ [発表者]が年会費を納入されていない場合は、発表申し込みを行えません。また[発表者]は、11月19日（土）までに大会参加費を送金しなければなりません。なお、年次大会委員会が特別に発表を依頼した場合を除きます。
- ・ 団体会員になっている団体に所属している方は、個人で入会していなくても発表できます。発表申し込みの際に団体会員としての発表であることを申し出てください。ただし大会参加費を支払う必要があります。

学会入会の Web リンク：<https://jaems.smoosy.atlas.jp/admission/agreement>

会員マイページのリンク：<https://jaems.jp/admission/mypage/>

4. 大会企画

「インフォーマルラーニングにおける ICT 利活用」

これまでも社会教育施設等や地域コミュニティの中で、ICT の利活用は進められてきましたが、コロナ禍を経て、ICT の利活用はより幅広い年代により身近になってきている。インフォーマルラーニングを支援する ICT 活用の可能性、実践のデザインについて知見を共有し、議論したい。

(登壇者)

山口情報芸術センター 会田大也

せんだいメディアテーク 小川直人

対談者：北海道教育大学 山口好和，椴山女学園大学 宮下十有

コーディネータ：梶山女学園大学 亀井美穂子

5. シンポジウム

「GIGA スクール構想における教育データの活用」

GIGA スクール構想でその活用が進む一人一台の情報端末。活用の情報共有から教育データの利活用にも発展している。そこで、情報教育に関連する企業により、これからの教育データの利活用について議論したい。

(登壇者)

コニカミノルタ(株) 石黒 広信

「MEXCBT の活用を目前に、教育データによる個別最適化された学びと授業改善への試み」

シャープマーケティングジャパン(株) 伊藤 浩

「教育データの利活用による、誰一人取り残すことのない学びへ」

東京書籍(株) 清遠 和弘

「デジタル教科書の学習履歴データ活用の課題と展望」

日本マイクロソフト(株) 佐藤 正浩

「教育データ活用の最前線！～日常遣いのなかですぐに始められるデータの活用から個別最適のための高度な分析・見える化まで～」

コーディネータ：園田学園女子大学 堀田博史

6. 課題研究プログラム

1) 映像コンテンツを活用した SDGs 教育

岸磨貴子 (明治大学), 久保田賢一 (NPO 法人 学習創造フォーラム)

ウクライナ情勢をはじめ、グローバルな問題に関心が高まっている。社会の問題について関心をもったり、働きかけたりすることがますます重要になり、SDGs 教育への関心も高い。NHK for School などの映像コンテンツ、現地から発信される SNS などを通じた映像コンテンツは、社会のさまざまな問題を多角的に考えるきっかけとなりうる。そこで、映像コンテンツを活用してどのような SDGs 教育が実践できるのか、実践されているのか、課題は何かを議論したい。

2) 児童生徒 1 人 1 台の情報端末の活用とメディア・リテラシーの実践

佐藤和紀 (信州大学), 宇治橋祐之 (NHK 放送文化研究所)

GIGA スクール構想に伴い、児童生徒 1 人 1 台の情報端末、高速インターネット、学習支援システムなどが学校現場に整備された。学習者が「意図をもって構成されたメディア」に主体的にアクセスして学ぶ機会は増えると考えられる。また、得られた情報や自分の考えについてメディアを通じて表現・発信して学ぶ機会も増加すると考える。さらに、家庭に端末を持ち帰り利用することを機に、家庭でのメディア・リテラシー育成のあり方も検討していく必要がある。こうした状況において求められるメディア・リテラシーに関する教育と実践について議論したい。

3) GIGA スクール時代の情報活用能力

小林祐紀（茨城大学），稲垣忠（東北学院大学）

小学校・中学校そして高等学校においても1人1台端末及び高速大容量のネットワーク等が整備され、補正予算においては教師用端末の整備も進められることになった。そして学習指導要領は、各校種において、いよいよ全面実施となり、高等学校では情報Ⅰが始まる。学習指導要領が要請する学びの探究化やSTEAM化において、情報活用能力は今まで以上に重要な役割を担うことになるのは明確である。しかしながら学校現場を概観すると、ICT活用が未だ目的的となっている現状が見受けられる。こうした状況において、情報活用能力に関する教育や実践の在り方について広く議論したい。

4) 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法への取り組み

小柳和喜雄（関西大学），山本朋弘（中村学園大学）

これまでの教職科目「教育の方法及び技術」と関わって、新たに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の1単位以上の修得を求められたことについて、教員養成、教職課程を持つ大学では対応を求められた。この2022年4月より、皆さんはどのように対応されているのか、どのような内容や方法が工夫されているかについて、情報の共有と研究知見の集積を学会として取り扱い議論したい。

お問い合わせ先

jaemsconference@gmail.com

ICoME 2022 のご報告

2022年8月3日から4日にかけて、2022 International Conference for Media in Education (ICoME), Movin' On with E-Learning - Today, Tomorrow & the Future が、TCC Hawaii.org とハワイ大学教育学部学習デザイン・技術学科 (LTEC) によりバーチャル形式で開催されました。ICoME 2022 は、渡航の際の不安やコロナウイルスパンデミック中の大規模集合を避けるため、参加者が個人またはグループで交流できるデジタル空間を提供する Gather Town と Zoom を組み合わせて仮想的な開催となりました。

ICoME 2022 は、日本教育メディア学会 (JAEMS)、韓国教育情報メディア学会 (KAEIM)、中国教育技術学会 (CAET)、Learning Times (米国ニューヨーク州) の技術協力のもと TCC Hawaii.org (NPO, 米国ハワイ州) が協力開催し、20 回目の共催となる国際会議です。このイベントは、教育メディアに関する教育者や学生の研究を紹介するために企画された国際的なイベントでもあります。

講演では、米国ウエストジョージア大学の Danilo Baylen 教授と、米国ハワイ大学マノア校の Seungoh Paek 教授が基調講演を行いました。ベイレン教授は「Rethinking, Redesigning, and Recreating Learning Experiences: ノーマルなものを探す省察」と題して講演を行い、Paek 教授の発表は「Distance in Learning : インストラクショナルデザインがインストラクショナルコアに与える影響を探る」というものでした。

会議には、8 カ国から 175 名の教員、学部及び大学院生、が参加しました。12 のラウンドテーブル・セッションで 61 名の発表者がありました。コンカレント・セッションでは、9 つのセッションで 39 名の発表者があり、100 の論文が発表されました。Young Scholar Awards は、韓国の大学から 9 名、日本の大学から 15 名、中国の大学から 2 名に授与されました。

- －大会ウェブサイト - <https://2022.icome.education/>
- －会議発表論文 - <https://2022.icome.education/papers-2/>
- －若手研究者賞 - <https://2022.icome.education/ysa/>

ICoME 2023 は、中国浙江省の温州大学で開催される予定です。

大会実行委員会 (TCC Hawaii) Bert Kimura, Curtis Ho, Kitty Hino

あたかもハワイのオーシャンブリーズを感じられるような、爽やかで温かい雰囲気の中執り行われ、多くの学部生やさまざまな職域の教職員のかたの参加もあり、情報量が多く機智に富んだ会でした。時差やオンライン環境にもかかわらず、ホストチームの皆様の暖かいお気持ちが伝わってくる近さを感じる学会でした。

研究委員会 (国際研究会担当) 工藤雅之 (藤女子大学)

2022 年度第 1 回研究委員会 研究会のご報告(オンライン開催)

- 日時:2022 年 7 月 10 日(日)
- 場所:オンライン開催
- 担当:東京学芸大学 登本洋子

2022 年度第 1 回研究会が、2022 年 7 月 10 日（日）にオンラインで開催されました。今回の研究会では、対面の再開と遠方からのご参加の両立を目指して、対面とオンラインでのハイブリッド開催を目指して準備を進めてまいりましたが、急激な感染拡大を受けて直前の 7 月 4 日（月）に、全面オンライン開催に変更になりました。2020 年度第 1 回研究会から 5 回目のオンライン開催です。

研究会のテーマは「探究的な学びや主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の実現におけるメディアの活用／一般」として募集を行い、13 件の発表、全国各地から 50 名を超えるご参加がありました。

研究会（10 時 00 分－15 時 35 分）では、1 人 1 台端末の活用が進む中で、協働学習に慣れた児童の学習過程の特徴、授業設計時の教師の作業と手順に関する実態把握、端末の持ち帰りを通じた振り返りの内容分析、BYOD を活用した Problem Based Learning の設計といった発表が行われました。情報活用能力の育成に関連し、目標や内容及び「学習の基盤となる資質・能力」等との関係に関する検討、授業研究における教員らの討議内容の分析、情報化優良校を対象とした調査についての報告がありました。また、語学学習への関心とメディア利用に関する考察や、高等学校情報科の「問題解決」におけるブレインストーミング、360 度画像と 3D 画像の特性を踏まえた活用方法についての実践発表が行われました。

座長やご参加のみなさまのご協力により、トラブルもなく、活発な議論が行われ、当研究会にご参加・ご発表いただきましたみなさま、座長をお引き受けいただいたみなさまに、あらためて御礼申し上げます。



文責：登本洋子（東京学芸大学）

論文投稿のご案内

編集委員会

<論文投稿のご案内>

『教育メディア研究』では、一般論文を広く募集しています。年2冊を発刊するため、発刊時期のかかわりで〆切は定めていますが、随時受け付け、その都度、査読プロセスを始めています。多くの会員の方からの投稿を期待しています。

次次号『教育メディア研究』(Vol.30, No.1)は、2023年2月15日を締め切りとして、2023年8月末発刊予定しております。

<書籍募集のお知らせ>

教育メディア研究に関わる書評に関する書籍の情報を募集しています。自薦・他薦は問いません。

上記情報、およびご献本を頂いた書籍については、編集委員会で拝読させていただき、本学会の趣旨を検討した上で、学会誌「教育メディア研究」に書評として掲載したり、Webサイト・ニューズレター等で紹介したりさせていただきます。

推薦いただいた書籍及び献本いただいた書籍が広く学会員の方々に読まれ、本学会の研究へと波及していくことを願っております。

献本先：日本教育メディア学会事務局

送り先：〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1 明星大学 教育学部 今野貴之 研究室

上記問い合わせ先：日本教育メディア学会編集委員会 editor[アットマーク]jaems.jp

学会費納入のお願い、入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2022年度（2022年4月1日から2023年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、会員システムからお手続きください。学会HPの「会員マイページ」よりアクセスいただくことが可能です。事務手続きの漏れを防ぐためにも、会員システムを通じたお支払いにご協力ください。

銀行振り込みをご希望の場合、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨンイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガッカイ）
--

※ゆうちょ銀行口座からの振り込みの場合は、下記記号番号をご利用ください。

記号：14160

番号：8658501

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、**振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」**にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、会費納入に併せて年度ごとに学生証などの証明書類のスキャンまたは写真データを会員システム経由で事務局宛に提出してください。卒業・修了などにより学生会員の条件を満たさなくなった場合は事務局にメールでお知らせください。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」をご登録の住所に郵送しております。これらを確実にお届けするために、定期的に**会員マイページにログインの上、登録情報の確認**をよろしくご願いたします。特に、生年月日の**登録**が初期設定のままの場合が多く見受けられますが、名誉会員等の表彰が正しく行えない場合がありますので、今一度ご確認ください。

また、まだ会員システムからマイページへのログイン登録がお済みでない方も、この機会にマイページ登録をお願いいたします。

【入会者・退会者・除籍者】※敬称略

新入会員・正会員 (12名)・・・長田 尚子, 稲木 健太郎, 伊藤 真理, 舟生 日出男, 成瀬 啓,
君塚 磨, 水野 一成, 近藤 勢津子, 森岡真弥, 長澤 江美,
山田 公成, 竹内 慎一

新入会員・学生会員 (6名)・・・古川 恵子, リク メイヨウ, 斉 碩雅, 山坂 菜々, 田中 七海,
大河 凌凱

退会者・正会員 (1名)・・・菊江 賢治

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。会費の納入状況についてご不明な点がありましたら、事務局 (office@jaems.jp) までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

- (1) 正会員, 学生会員, 団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をもって除籍され、会員の資格を喪失する。
- (2) 除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。

会員総数 358名・12団体

名誉会員 : 6名*

正会員 : 309名

学生会員 : 49名

団体会員 : 6団体

購読会員 : 6団体

(2022年10月20日 現在)

*会員総数に含まず。6名の氏名は学会HPにて公開。

日本教育メディア学会 事務局	広報委員会
〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1 明星大学 教育学部 今野貴之 研究室内	委員長 岩崎千晶 (関西大学) 副委員長 永田智子 (兵庫教育大学) 委員 井ノ上憲司 (大阪大学) 尾崎拓郎 (大阪教育大学) 高橋暁子 (千葉工業大学) 多田泰紘 (京都橘大学)
E-mail : office@jaems.jp 学会ホームページ URL : http://jaems.jp/	